

# ラホヤ村通信

(6)

高垣愉佳

## 1. 口説き文句あれこれ

歌を使って発音練習するクラスで、歌の歌詞に「あなたは私の輝ける太陽だ。」とか「あなたは私のあまーいはちみつだ。」とかいう日本語に訳すとどないしようもない歌詞がいっぱい出ていた。先生が「皆さんの国ではどう表現しますか？」と聞いて、皆口々に「はちみつ」「キャンディー」「角砂糖」とか言って、日本人だけが発言しなかった。先生がもう一人の日本人に「日本ではどう言うの？」と聞いたら、彼女は「日本人は言わない」と答えた。先生があの手この手で日本でどう表現するのかを聞き出そうとしたのだが、彼女は「日本人は言わない。」しか言わなかった。そうしたら、スペイン人が「日本人はロマンスに欠けてるのよ。」と言い出して、私は危うく無礼打ちにしまいそうになった(笑)。先生が「本当に日本ではそういうこと言わないの？ゆかにも聞いてみよう。」と話を振ってきたので、「本当に言いません。」と答えたら「じゃあ愛する者を呼ぶとき、例えば旦那とか子供とか、どう呼ぶの？」と聞いたので「名前前で呼びます。日本でそういう言い方をしない理由は多分日本では甘いという表現はあまりいい意味ではなくて、悪い意味があるからだと思います。」と答えたところ、先生が「なるほど。わかった！これは文化の

違いに起因するんだ。」と言って日本の文化について皆に説明しはじめた。

先生の説明は大きく間違っただけで、結論が面白かったので紹介します。「皆知ってるかどうかわからないけどね、日本ではほとんどの人が70歳以上まで生きるんだよ。中には80歳、90歳まで生きる人もいるんだ。これは奇跡みたいだと思うだろう？多分ね、日本人が長生きする理由は食文化にあると思うんだよ。ゆかは日本では甘いという表現にいい意味は無いと言っただろ？多分日本人は健康的な食事を好むんだよ。だからきっと甘いという表現がいい意味を持たないんだと思う。アメリカ人は甘いものや油っこいもの何でもいからたくさん食べるだろ？多分スペインもそうじゃないか？でも日本人は違うんだ。日本人は体にいいものを少しだけ食べるんだよ。皆、寿司は知ってるよね？寿司ってすごく体にいいよ。そして小さくて、ほんの少ししか入ってないだろう？めっちゃでっかい皿に山盛り盛られてる寿司って見たことないだろう？そう、きっとあれが日本の文化なんだよ。う～ん、そうだなあ～、甘いが良くない意味だったら、じゃあ日本人はあなたは私の寿司ですって表現したらどうだろう？寿司は日本でもいい意味だろう？体にいいし、美味しい

し、悪い意味は無いだろう？寿司が嫌なら米でもいい。米も体にいい。あなたは私の米です。この表現ならいいだろう？」

確かに寿司も米も悪い意味は無いし、体にもいいだろう。確かにコメは主食で必要欠くべからざるものではあるけども、「あなたは私の米です。」とか言われてもなあ・・・と苦笑した。確かに口説き文句としてもものすごく新鮮ではあるけども。こんなところにも文化の違いが出て来るのかと興味深かった。

## 2. 口癖(お気に入りの表現)

英語でも、皆それぞれ良く使う言い方の癖があるという事に気づいた。私の場合は「so」と「maybe」。日本語でも京都人の会話は「あんな」で始まって「多分な」で終わると言われているので、それが反映されているのかもしれない。「so」と言っている一瞬考える時間が出来るから便利でつい言いってしまう。「so」は大抵の話に入れても意味が不自然にならないし、「えー」や「あー」よりも邪魔にならない。英語の会話の途中で「あー」と言われると、頭の中では「are」が出てきてけっこううっとうしかったりもする。

これは私の口癖で、口癖は本当に人それぞれだ。枕詞のように「recently (最近)」と言う人も居るし、何でも「also (～も)」と言う人も居る。ちなみに「recently」が口癖の人の日本語の口癖は「最近どうよ？」なので、英語でもそのまま見事に癖が反映されている。違う言語だけれど、同じ人間が喋っているのだから当たり前と言えば当たり前なのかもしれない。

スペイン語語圏から来た友人が良く使っていた口癖、「In my case, . . . . . . . . . . (私の場合はね、. . . . . . . . . .)」この喋り出しは何かを主張する時にとても使えるのではないかと思った。相手の意見も尊重しつつ、「私の場合は〇〇でした。」と意見を述べる事が出来る。聞いていて、嫌な感じがしないなあ～と思った。過度の一般化を避けることが出来て、あくまで自分の経験に基づくとみたいな感じを出せるんじゃないかと思う。

逆にあまり頻繁に使わない方が良いのではないかと思った口癖は、「You mean . . . ? (あなたが言ってるのはこういう意味?)」という表現。自分の聞き取りに不安を感じる時など、相手に内容確認をしたい時にはとても使える表現なのだけど、これを毎回繰り返し言われるとかなり嫌な感じを受ける。関西弁風に訳すと、「つまりあんたが言いたいのは～ってこと？」と繰り返し言われているような感覚だ。もちろん相手の言うことを正確にキャッチしようとしてる確認作業とも取れるのだが、あまりにも繰り返し言われると意図するしないに関わらず、「あんたの英語や言ってることよく分からないよ」というメッセージを送ることになってしまうように思う。

英語の口癖と言えば、アメリカの映画やアニメでよく耳にする「fucking (くそ!)」。実は西海岸、特にカリフォルニアではほとんど耳にしたことが無かった。珍しく「fucking」と言っている人が居るなあと思っていると、大抵の人がニューヨークや東海岸から来た人だった。アメリカ人にこの件について聞いてみたところ、確かにニューヨークの人の口癖みたいなものかもしれ

ないと言っていた。

私のヨガの先生の口癖は「タラ〜ン」だった。身体の構造や力のかけ方を説明した後、ポーズを取る際に必ず「タラ〜ン」というのだ。難しいポーズをする際などに「タラ〜ン」という音を聞くと力が抜けるので、一体何なんだろう？やめてほしいなあ〜とずっと思っていたのだけれど、その後レストランのウエイトレスさんが料理を出す際に「タラ〜ン」と言って料理を出すという場面に遭遇した。聞いたら今だ！と思い、一緒にレストランに行っていたアメリカ人の友人に「あのタラ〜ンというのはどういう意味？」と聞いてみた。アメリカ人の友人の説明によると、「タラ〜ン」をよく使うのはマジシャンで、手のひらに黒い布を被せてそこから鳩を出したりする時に、「タラ〜ン」と言いながら黒い布をはがすのだというような説明だった。つまり日本語風に言うと「ジャジャーン」に相当するのだなと思った。確かに、ヨガの先生が言っていた「タラ〜ン」を「ジャジャーン」に変換してみると、状況としっくりきた。口癖はなかなか奥が深い。

### 3. 水族館あれこれ

サンディエゴには有名な水族館が2つある。一つは、シーワールド。ここはアメリカでも有名な大きな水族館で、サンディエゴの観光名所の一つとなっている。大きなシャチのショー（シャチの人権ならぬシャチ権を尊重する為に最近中止された）でも有名だ。ちなみに、このシャチはこれまでに指導員を三名くらい天国に送った事があるなかなか凶暴なシャチという事でも有名である。

もう一つの有名な水族館はとても小さな水族館で、バーチアクアリウムという。スクリップス海洋研究所付属の水族館で、展示の仕方が非常に面白い。



例えば、青白く光る物体のこの写真↑。まずこの水槽の前を通る。



次にまた青白く光る物体↑、この水槽の前を通る。



そして最後に、説明書きのボードの展示にたどり着く。初めの展示はナイロン袋、二つ目の展示はクラゲ、そして三つ目の説明はクラゲと間違えてサメがナイロン袋を飲み込んでたくさん死んでいますという現状を伝える説明書き。

当たりさわりの無いくらげとナイロン袋の展示例でお伝えしたが、その他にも国際問題に発展しているような問題に関しても臆することなくこのような形で展示されている。事実と事実を展示して、そこから問題意識や問いを投げかけてくる。ビーチの近くにある水族館なので、大人だけでなく子供達もたくさん遊びに来ている。小さいころから、遊びを通してこういうものに触れる事と触れない事の違いを想像せずにはいられなかった。